

⑤9 三陸沿岸道路気仙沼湾横断橋

受賞機関 国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所

キーワード 三陸沿岸道路、東北最大級の斜張橋、復興のシンボル

全建賞審査委員会の評価ポイント

三陸沿岸道路で唯一海上を通過する橋梁の整備。東北最大級の斜張橋の実現に当たり、構造物としての安全性や耐久性のみならず、維持管理の容易さや環境との調和など、多角的な検討を実施し、地域のシンボルとしての構造物の完成につなげることができた点が評価された。

1. はじめに

東日本大震災からの被災地復興に向けたリーディングプロジェクトとして整備を進めてきた復興道路・復興支援道路のうち、宮城県内の復興道路「三陸沿岸道路、延長126km」は、震災から約10年となる令和3年3月6日に全線開通した。

気仙沼湾横断橋（愛称：かなえおおはし）は、三陸沿岸道路の中で唯一海上を通過する橋梁で、東北最大級の斜張橋を有し、その規模やスタイル、景観は地域内外の人々に震災伝承や東北の復興を示すシンボルとなっている。



気仙沼湾横断橋（愛称：かなえおおはし）

2. 事業の概要

気仙沼湾横断橋は、気仙沼港インターチェンジから浦島大島インターチェンジ間（延長2.0km）に位置し、気仙沼湾や二級河川大川、複数の市道をまたぐ橋長1,344mの長大橋であり、陸上部（高架橋部）と海上部（斜張橋部）で構成されている。下部工は平成25年度から、上部工は平成28年度から工事に着手し、令和2年6月に上部工の閉合が完了している。

海上部は、橋長680m・主塔高さ100mの斜張橋となっており、気仙沼湾を通過する船舶や周りの養殖場などの障害とならないよう主塔の位置を決め、支間長360mは東北最大の規模である。

3. 事業の成果

気仙沼湾横断橋の計画・設計に当たっては、東日本大震災を踏まえ、「使用目的との適合性」「構造物としての安全性及び耐久性」「施工品質の確保」「維持管理の確実性及び容易さ」「環境との調和」の5項目を要求性能として掲げ、形式選定や詳細設計などにおいて繰り返し照査・検討を行った。

施工段階では、生鮮カツオの水揚げ量が23年連続日本一を誇るなど東北有数の漁港である気仙沼湾内での長期施工となることから、事業着手後の早い段階から有識者、地元関係者、航路利用者などと様々な議論・調整を行い、水域利用者（漁船、定期運航船等）への影響を最小限に抑えた施工等に努めた。

また、上部工閉合時は、地元関係者や周辺地区の4つの小学校の生徒代表等で「記念プレート設置」を実施するなど、橋梁名称検討や竣工時などの各段階で地域住民参加のイベントを実施したところである。

4. おわりに

地元気仙沼市では、開通時の記念花火の打ち上げを行い、東日本大震災の犠牲者への追悼と復興支援に対する感謝の意を発信するとともに、夜間のライトアップや公募で愛称「かなえおおはし」を募集するなど、気仙沼湾横断橋は地域住民から愛され、心の支えとなっている。

東日本大震災からの復興のシンボルとして、後世へこの歴史を伝承し、気仙沼をはじめとする三陸沿岸地域の着実な復興と未来を支え、また地域や利用者から末永く親しまれる橋梁となることを期待している。



気仙沼湾横断橋のライトアップ

賛助会員 エム・エムブリッジ(株)、JFEエンジニアリング(株)、(株)横河ブリッジ、鹿島建設(株)、東亜建設工業(株)、(株)不動テトラ、大日本コンサルタント(株)、(株)長大